



国分寺再発見 むかしの井戸と 国分寺ブランド第 1 号「司シルエット」の ふるさとを訪ねる

10月25日（火）

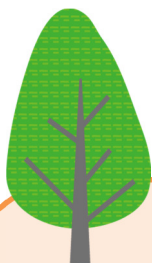
午前9時30分国立駅出発。

正午ころ北町地域センターで解散。

参加者は32名でした。



コース：国立駅～鉄道総合技術研究所～平兵衛樹林地「もみじ井戸」～「90度井戸」（富士本 90 度公園）～「ぐるぐる井戸」（新町ぐるぐる公園）～司メープル～「北町井戸」（北町公園）～北町地域センター＜全行程約5 km＞



【むかしの井戸】

市民の皆さんが自由に使える災害用の給水施設として、国分寺市が公園などに設置している、手押しポンプ井戸のことです。

関東ローム層の下の砂礫（されき）層内を流れる地下水を汲み上げています。深さは場所によって違いますが、地下 10～50 m 位の地下水を汲み上げています。

市には現在 19 箇所のむかしの井戸があり、うち 17 箇所を市で管理しています。

そのうち 10 箇所あまりでは、月に 1 回、1 時間程度、井戸の近くの住民や市民防災推進委員が中心となって『井戸端会議』を開いています。『井戸端会議』では、簡単な水質検査（パックテスト）や井戸のまわりの清掃などを行っています。水を汲み上げながら、井戸や地下水の話、防災や防犯、地域の情報を交えて、地域コミュニティを育てています。



【司メープル】

北町にある農園・司メープルは、もみじ・かえでの苗木生産・販売をする専門農家です。もみじ・かえでで埋め尽くされた農園で、園主の田中さんから、国分寺ブランド第 1 号であるイロハモミジ「司シルエット」の開発の経緯や苦労話、もみじ・かえでを育てる技術、喜びなどをうかがいました。先が細く伸びた樹形が珍しいこのもみじは、アメリカ、ヨーロッパからも引き合いがあります。受け継いだ畑が広くなかったことから生まれた苗木生産でしたが、工夫と経験を重ねて、都市農業の未来を開きました。

今回お話を聞いたことで、庭に 1 本、司シルエットを植えてみようと思った方も多かったのではないのでしょうか。

